

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援ルピナス教室		公表日		令和8年1月26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		療育、自由遊びなど活動中は2部屋を使用し、内容等に合わせて使い分けをしております。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	対応できる配置数の設定を心がけております。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		昨年度課題に挙げた床についてですが、フロアーの張替えを行いました。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		・フロアーの張替えを行いました。 ・毎日清掃を行ったり、冬の乾燥時には加湿空気清浄機を導入したり、心地よく過ごせるようにしています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		必要に応じて、児童が個別のスペースを使用することができるような環境は用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		業務改善のためのPDCAサイクルは確立している	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	昨年度の保護者向け評価表を受け、各改善点に向き合った	昨年度から改善されていない点もあるので、来年度はその改善点にも向き合っていく
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		今年度は職員の意見等聞く機会を設け、可能な範囲で反映し、業務の効率化等に取り組んだ	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	5	第三者による外部評価は行っていない。	今後、取り入れるか検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		昨年度より研修の機会を設け、スキルアップ等を旨とした	まだ研修の機会は不十分と考えており、来年度はさらに研修の数を増やす、また質を高めていきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		支援プログラムは作成している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		面談時にアセスメントを取り、また保護者からニーズをくみ取りながら、個別支援計画に繋げています	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	児童発達支援管理責任者だけではわからないこともあるので、支援者にもモニタリング等をお願いしている	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	個別支援計画は共有している	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを大切にしている	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域連携」を意識した個別支援計画を作成している。	それぞれ意識しているが、「家族支援」「移行支援」「地域連携」の内容をもっと濃くできるように努めていきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	常勤職員を中心にチームで立案をしている	非常勤職員も交えながら、さらによい活動プログラムを立案できるようにしていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		活動プログラムが固定化されないようにしている。ただし場合によっては継続も必要なので、そのバランスは考えている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を上手く組み合わせている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	支援前にはその日の流れなどの確認、注意事項等を共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	4	支援後も打合せという形ではないが振り返りなどの情報共有は行っている。	支援後、終礼というしっかりとした形で機会を設け、その日の振り返りや情報共有を行い、次に繋げることができればと考えている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		日々の支援に関して記録は徹底している	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的にモニタリングを実施している。児童発達支援管理責任者だけではわからないこともあるので、支援者にもモニタリング等をお願いしている	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童発達支援管理責任者や訪問支援専門員がサービス担当者会議や関係機関連携の場に参加している。	もっと児童に近い、児童指導員や保育士が関わることも有効だと思うので、参加を前向きに検討していきたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		医療とのつながりはない。しかし他障害福祉事業所や保育園等とは情報交換をしたり、連携をとることができている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		・インクルージョン推進を意識した支援を行っている。 ・保育園等との情報共有、相互理解を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	4	現状、そこまで行っていないが、今年度卒園の児童に関しては就学小学校先に移行支援の為の情報共有に何おうと考えている。	今後、一部の児童だけではなく、可能な限り情報共有と相互理解を図り、移行支援を進めていきたい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2	児童発達支援センターとはあまり関わりが持っていないのが現状。しかし市の療育センターとの連携はあり、助言等も頂いている。	児童発達支援センターとの連携も強めていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	5		事業所として、保育園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会がないのが現状。今後、前向きに検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	1	送迎時等に児童の状況を共有している。またお電話にて情報共有することもある。	利用者によって、情報共有の機会に差があるので、平等に共有する場を設けていきたい。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4		「ペアレントトレーニング」はあまり行っていないのが現状です。面談時やご相談を受けた際は助言をさせていただくことはございます。今後、家族支援プログラムに関しては前向きに検討してまいります。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		・契約時に説明させて頂いております。 ・利用している中でもご不明点が御座いましたら、いつでもお伺いいたします。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		面談時に利用者及び保護者からニーズを聞き、個別支援計画作成に繋げている。	もう少し児童の意向を丁寧に聞き取りが出来るかなおよいと思う。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		面談中に一緒に次の目標を検討し、同時に説明も行っています。また交付時に再度説明をさせて頂いております。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・定期的に面談は行っており、その時には助言等を行っていますが、それ以外ではなかなか出ていないのが現状である。 ・保護者様の気持ちに寄り添った適確な支援やアドバイスが出来る様、支援者のスキルアップもおこなってまいります。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	5		今年度の開催ができなかった。来年度は保護者会の開催を前向きに検討していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		お子さまや保護者からの申し出があれば、相談可能です。申し出があった際には迅速かつ適切に対応できるようにしてまいります。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		毎月発行しております「ルビナス通信」や日々更新しているSNSで活動の様子を発信しております。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報は鍵付き書庫で適切に保管させていただいております。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		利用毎に「サービス提供記録」を記入し、また個別に写真をお送りさせていただく事で、利用時の活動内容やお子様様子を保護者様と情報共有させていただいております。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4	地域に開かれたという感じではないが、地域貢献活動という形で月1度、事業所周辺の清掃を行っている。	事業所行事に地域住民を招待することはできていない。今後前向きに検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		マニュアルは作成している。周知の機会も設けている。	各マニュアルは策定しており、訓練も行っている。説明から時間が経つと忘れてしまうと思うので、職員も保護者も年度ごとに周知の場は設けた方が良いとは考えている。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		業務継続計画（BCP）は作成しており、研修も自然災害と感染症それぞれ年2回ずつ実施している	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		契約時にアセスメントシート等で確認をし、全職員に共有している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	契約時にアセスメントシート等で確認をし、全職員に共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を作成し、年1回研修訓練を実施している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		お子さまが安心安全に過ごせるように、ヒヤリハット集の作成をして、活動に生かしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		・お子さまが安心安全に過ごせるように、ヒヤリハット集の作成をして、活動に生かしている。 ・また、怪我をしてしまう等の案件が発生した際には共有をし、再発防止に向けた取り組みを行っています。	ヒヤリハットをとっているが、もう少し徹底し、より安全安心な環境を提供したいと考えております。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待防止研修の年2回（基礎研修、事例検討）を実施しています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		身体拘束等適正化研修として、もし身体拘束をやむを得ない理由がありする場合の、要件等はしっかりと確認している。		